

学位論文及び審査結果の要旨

横浜国立大学

氏名	斬小
学位の種類	博士（学術）
学位記番号	都市博甲第2182号
学位授与年月日	2020年 9月 30日
学位授与の根拠	学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第4条第1項及び横浜国立大学学位規則第5条第1項
学府・専攻名	都市イノベーション学府 都市イノベーション専攻
学位論文題目	中国における家族福祉の現状と課題 —少子高齢化問題に対する介護・子育て支援対策
論文審査委員	主査 横浜国立大学 教授 四方田千恵 横浜国立大学 教授 小宮 正安 放送大学神奈川学習センター 客員教授 白水 紀子 横浜国立大学 教授 松本 尚之 横浜国立大学 教授 吉原 直樹

論文及び審査結果の要旨

本論文は中国には総括的な家族政策、家族福祉研究がないことを背景に、日本での家族福祉の概念を用いつつ、中国政府の介護と子育て支援対策の現状を分析したものである。「家族福祉」の動向を巡る政府の政策理念や家族観を明らかにすると同時に、中国の社会福祉、特に高齢者の介護と子育てをめぐる福祉政策の今後の課題を明らかにした点に、本論文の意義がある。

少子高齢化問題と家族の変容に対応するための政府の家族福祉の動向を把握した第一章に引き続き、第二章においては、日本の家族福祉研究をもとに、中国政府の家族福祉政策を論じる際に、現代家族福祉論における「個人尊敬」、さらにはファミリー・ソーシャルワークにおけるエコロジカル・アプローチが有効な視点であることを指摘した。また、その視点に立ち、第三章から第七章までは中国政府の家族福祉の政策課題である在宅福祉政策と子育て支援対策の現状を分析した。特に第五章と第七章で、高齢者在宅福祉の基盤組織である社区において、運営スタッフ、住民に面接聞き取り調査を行い、在宅福祉の現状や在宅育児の実態を詳細に描き出した点は、本論文の独創性を示すものである。第八章で日本の地域子育て支援拠点の事例を参考にしながら、中国社区在宅保育施設において提供されるべきサービス内容、及びそれを実践するための行政組織のあり方を提案した後、終章では国政府の家族福祉政策理念である「高齢者權益法」及び早期教育の強調は、家族の負担を軽減せず、むしろ家族の役割を一層強化する方向に向かっていることを指摘、今後はこうした現状を改善するため、家族内のケアを支援するための「ケアの社会化」、特に社区のケアシステムの構築を目指すことが結論として述べられている。

先行文献に対する詳細な調査に基づき、分析に有効な視点を導き出した点、また、日本人研究者には実施しにくい中国における面接聞き取り調査を行い、関係者の貴重な証言を引き出した点などから、本論文は今後の中国家族福祉研究に寄与する論文であると高く評価された。

提出された論文に対して、iThenticateにより文献との重複の有無を確認したが、専門用語や一般的な事項の定義、参考文献の表題を除いて既往文献との重複はなく、剽窃、盗用の不正行為はないことを確認した。

以上のことから、本論文は学術的価値や新規性を十分に含んでおり、博士（学術）の学位にふさわしいと判断された。

・令和2年7月20日（月）13：00より、審査委員全員の出席のもとに約一時間半にわたり靳小の学位論文の公聴会を Zoom にて開催し、学位論文の内容の発表と質疑応答を行った。その後、Teams にて審査委員による学位論文の審査を行った。その結果、本論文は学位論文に相応しい内容を有しており、質疑にも的確に対応していると判断された。また学位論文の一部を査読付き論文として中国の省レベルの期刊雑誌に発表していることから、外部による評価も受けており、関連する分野の科目について博士（学術）の学位を得るにふさわしい学力を有していると判断された。なお、修了に必要な単位は取得済みである。

・外国語については、靳小の場合には日本語が外国語となるが、日本語による学位論文の執筆を始め、査読付き論文の執筆や学会での口頭発表の実績から、十分な日本語の能力を有していると判断した。

・対外発表論文および学会報告は以下の通りであり、学位取得に必要な数を満たしていると判断された。

<査読付き論文>

- 1（日本語）「中国における高齢者在宅福祉の現状：家族福祉の視点からみる「頻繁に親元に帰れ」条項」『常盤台人間文化論叢』5号、2019年 5頁～28頁
- 2（中国語）「探讨城市社区型婴幼儿照护服务设施的理念和模式--从日本地域育儿支援事业而来的启示」『青年与社会』（共青团云南省委）2020年2月下半期 204頁～208頁

<学会報告>

- 1 報告題目：「2018年10月21日 中国における高齢者在宅福祉の現状 一 家族福祉の視点からみる「頻繁に親元に帰れ」条項」
日本現代中国学会第68回全国学術大会（早稲田大学、2018年10月21日）

以上により、当該学生は中国研究の分野において博士（学術）の学位を得るにふさわしい学識を有するものと認められたため、審査委員会として最終試験に合格であると判定した。

注 論文及び審査結果の要旨欄に不足が生じる場合には、同欄の様式に準じ裏面又は別紙によること。